

第Ⅳ章 まとめ

竹ヶ島第2遺跡は、宮崎市北部の佐土原町域を流れる石崎川の下流域右岸に位置する。宮崎市域海岸部に形成される砂丘状地形上の突端付近にあり、石崎川を望む位置にある。調査時点における遺跡周辺の標高は約10 mであるが、削平によって旧地形は改変されていた。今回の発掘調査は宅地の開発にともなって実施された。調査面積が狭いことや削平などの影響から、断片的な情報を得ることができたに過ぎないがその成果を以下に列記したい。

調査の結果、弥生時代、古代、中世、近世の遺構が確認され、これらにともなって各時代の遺物が出土した。

弥生時代の遺構には、土坑4、溝状遺構1がある。いずれも遺物が出土しなかったものの、埋土の特徴から当該時期の遺構と判断した。具体的な時期は明確ではないものの、今回調査では包含層中などから弥生時代中期の土器が出土していることから、上記2つの遺構もこの時期に位置付けられる可能性が高いだろう。これまで、石崎川下流域では弥生時代中期に遡る弥生時代遺跡は確認されていない。きわめて断片的な情報ではあるものの、今回調査成果は当該地域での弥生時代の様相を知る上で重要であろう。

古代の遺構には溝状遺構2がある。調査区内においてL字状に屈曲するものの、その正確は判然としなかった。

中世の遺構には土坑7がある。不整円形の土坑で、多量の小礫が充填されていることなどが、宮崎市高岡町の弓袋第2遺跡で確認された石塔の基礎構造と類似していることから、本遺構も同様のものと想定された。石塔などは確認されていないが、かつて調査地周辺には墓域として利用されていた時期があった可能性がある。

近世以降に位置付けられる遺構には、道路状遺構3、溝状遺構6、8、10、14および5基のピットがある。道路状遺構のほかは、その性格などが判然としないものの当該時期にも周辺に人々の生活が営まれていたことは明らかである。

また、当地は明治初頭に佐土原城から広瀬城への転城にともなって、設置された広瀬学習館が存在していた付近にあたる。今回の調査では、これに関わると判断できる遺構は確認できなかった。今回調査で出土した瓦片がこれに関連する遺物の可能性もあるが判然としない。

参考文献

佐土原町史編纂委員会 1982『佐土原町史』佐土原町

上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会 pp. 55-70

宮崎市教育委員会編 2016『佐土原城跡第6次調査』宮崎市教育委員会文化財調査報告書第109集 宮崎市教育委員会